

<b>神の国の働き人 マタイ 20:1-16</b>	2023. 10. 1 合同礼拝 NO. 709 春日部福音自由教会 山田豊
----------------------------	---

暑い暑いと言っているうちに、ようやく涼しい季節になりました。今は、高い高いという声が聞こえてきます。モノの値段が上がり、毎日の暮らしが大変だということです。十分な賃金が欲しい、自分の能力を生かせる働きの場が欲しい、と願っている方も多くあると思います。本日の個所は、ぶどう園の労働者というタイトルがつくことの多い、イエスの語られたたとえ話の一つです。

このたとえ話の結びは、「このように、後の者が先になり、先の者が後になります。」となっていて、19:30を受けています。このことばの意味を、例えを用いてイエスが語ったということで、弟子たちにとって、また私たちにとっても、このことばを正しく理解するのは難しいことなのだと思います。

主婦と生活社発行の「成語大辞苑—故事ことわざ名言名句」にも取り上げられているほど、よく知られた言葉です。そこには、【意味】神の恩恵は、その人のこの世での働きの多寡に応じてあるのではない。後の者が先になったり、先にいる者が後になったりするように、働きの少ない者でも同じように報われるのだ。と書かれていました。

確かにこのように理解することができますが、20章は、神の国、天のみ国のたとえとして語られています。たった1時間しか働かなかった労働者にも、最初からずっと働いていた労働者にも同じ1デナリオンを与えたというこの物語は、主人は不公平なことをする人ではなく、むしろあわれみ深く皆を愛している神の心を表している物語なのです。人よりも先に行こう、名を誰よりも早く上げ功をなそうと頑張る人もいれば、働く機会を失って意気消沈している人もいるでしょう。自分はダメな人間だと思っている人も、実は、人の役に立ちたいと心のどこかに思っている者です。神はそのような人を受け入れ、相ふさわしい報酬を与え、神の働き人としてご自分の御心を行うことを願っておられるのです。

本論から外れるかもしれませんが、次の世代の人の足音が聞こえたら、「どうぞおさきに、次は君たちの時代だよ」と言って道を手放すことが必要です。いつまでも道をふさいでいたら、後に続くものはいい迷惑をこうむるのです。次世代の人たちに道をうまく譲っていく営みもまた、教会にとっては必要です。神の国の働き人は、すぐ近くにおいて、神と人のために役立ちたいと願っているのです。

## 引用聖句

マタイ 19:27 そのとき、ペテロはイエスに言った。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。それで、私たちは何をいただけるのでしょうか。」

マルコ 9:33, 34 一行はカペナウムに着いた。イエスは家に入ってから、弟子たちにお尋ねになった。「来る途中、何を論じ合っていたのですか。」34 彼らは黙っていた。来る途中、だれが一番偉いか論じ合っていたからである。

ルカ 17:21 『見よ、ここだ』とか、『あそこだ』とか言えるようなものはありません。見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。」

ヨハネ 15:15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

## 後にいる者が先になり、先にいる者が後になる 新約聖書 名

【意味】神の恩恵は、その人のこの世での働きの多寡(たか)に応じてあるのではない。後の者が先になったり、先にいる者が後になったりするように、働きの少ない者でも同じように報われるのだ。

【解説】イエスキリストの説いた、「ブドウ園の労働者(マタイによる福音書 20:16)のたとえ話の結びのことば。

(聖書の引用)

この主人というのは神のこと。このように、神の恩恵は労働時間の長短、あるいはこの世での功績の大小によるのではないということを行っている。だから「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」ことがありうるのだ。自分は良い行いをしているから、絶対に神の恩恵にあずかれる。自分は罪深いことをして生きてきたから決して神の恩恵にはあずかれない—などと、この世の行いによって決まるのではないということである。不幸にして罪深く生きざるを得ないものこそ、神は温かく迎えてくれるに違いない。

## 後の雁が先になる 日本 慣

【意味】後の者が先のを追い越すこと。また、若い者が先に死ぬことのとえとしてもいう。

【解説】後輩が先輩をしのいだり、力量、学識、地位、財産などで後を取っていた者が先を行く者を追いぬいたりすることを言う。雁が一列に並んで飛んでいく。その姿から、一羽一羽の順序もきちんと決まっているのだろうと想像する。同時に、ときには、後の雁が先に立つこともあるだろうとも想像する。そして、人間の世の中だって同じだ、一時の序列も、やがて次の序列と交代していく、それが自然なのだ、と言いつけさせる—そんなことわざである。なお、「後の雁が～」は「後の雁が～」ともいう。また「後の鳥が先になる」ともいう。なお、「雁行(がんこう)」といわれる「へ」の字形の飛行は、羽ばたきによって生ずる風圧の変化で、後ろほど楽になるという。

したがって先頭は一定せず、疲れれば後ろに下がり、これを繰り返しながら長距離を飛び続けるのである。

(成語大辞苑 主婦と生活社)